

「This is it」

拝復 二週間のご無沙汰でした。早いものでもう1月が終わってしまいました。ついこの間、お正月の挨拶をしたばかり、と感じるのですが、すでに一年の8.3%を使ってしまったわけです。「少年老い易く、学なり難し」という言葉がありますが、実感しています。今日は日差しに恵まれとても暖かい。庭に

梅一輪、一輪ごとの暖かさですね→



1 本だけ梅の木があるのですが、今朝見たら一輪だけ 花を開いていました。春はもうすぐそこ。次回の News Letter をお送りするころには満開でしょうか。この季節はオープンカー



に乗るのに最適なシーズンです。時々勘違いをされるのですが、夏は絶対にオープン

にして走ることはありません。暑いのと日焼けでとんでもないことになるのです。一番のシーズンは晩秋



か早春。ところが、数年前に突如発祥した「花粉症」のおかげで台無しになりました。マスクにゴーグルをしながらのドライブはぜんぜん楽しくありません(T_T)。

もう何も言うことはございません(T_T)→



今日のお題は「This is it」。ご存知のとおり昨年6月25日に急逝した Michael Jackson (以下 MJ と略します) が7月から予定していた London 公演のリハーサルを収録した映画です。ご覧になられた方も多いと思います。私もその一人です。映画を見て泣くことはあまりないのですが、思わず目頭が熱くなりました。そのブルー・レイが先週ようやく手元に来ました。すでに4回見ましたが感動は深まるばかりです。今回はその「This is it」を解きほぐしながら「King of Pop」と称された MJ を描こうと思います。

ロックって、これじゃない! (笑) →



最近歳のせいかわつぱをよく聞く (笑) →

ちなみに King of Rock は エルビス・プレスリー、ビートルズは 4 B (Bach Brahms Beatles) と称されます。



Beethoven

まず、あまりよくご存じないという方のために略歴を、MJ : Michael Joseph Jackson は 1958 年 8 月 29 日、インディアナ州に生を受けます。この州は黒人比率が全米でトップとして知られる州で、おおむね貧しく治安はよくなかった。10 人兄弟の 8 番目（六男）。家は貧しく両親が共働きで何とか食いつなぐこ

幼いマイケルが可愛かった（前列右側）→



とが精一杯の環境の中で育った。1966 年に兄たちと「**Jackson5**」を結成、ダイアナ・ロスに見出され全米デビュー瞬く間にヒットチャートの常連となる。1971 年にはソロでデビュー（12 歳）。名プロデューサー Quincy Jones との出会いを通じて「Off The Wall」（1979）「Thriller」（1982）などで世界的ヒットを飛ばし、とくに「**Thriller**」は全世界で 1 億 4000 万枚のセールスを記録。これは現在に至るまで破られることのないギネスである。その後もヒットを連発するが、晩年にはむしろスキャンダルが目立ち、コンサートツアーは 1997 年 10 月を最後に行われていない。そんな彼が 2009 年に突如ロンドン公演の計画を発表した。7 月から全 50 回、チケットは即日完売。このロンドン公演のリハーサル（3 月～6 月）を納めた映画がこの「This is it」である。予告編です。まず、これを見てください。
<http://movie.walkerplus.com/mv45347/trailer/> 雰囲気は伝わってきます。

映画は 9 人のバックダンサーのオーディションから始まる。世界中から数百名のダンサーが「マイケル

これも好きな映画です→



と一緒に踊りたい」。そのためだけに集まった。この風景は映画「コーラス・ライン」そのもの。最終専攻に残ったメンバーはいずれも各国のトップダンサー。私には全員が同じレベルで踊っているようにしか思えないのだが、MJ は選考に厳しい注文をつける。「**踊りがうまいだけでは十分ではないんだ、華がなければ**」。選出されたメンバーは思わず崩れ落ちる。夢がかなった瞬間だ。しかしそれが夢ではなかったことはすぐにわからせられる。ダンスのリハーサルを通じて MJ のすごさを思い知るのだ。もっと高いところへ。MJ のダンスはバックダンサーのものと比べて素人目にも違いがわ

もちろん、ムーンウォークのことですよ（笑）→



かる。キレが違うのだ。50 歳の人間がやる技ではない。「**最高の僕らを見せよう**」 MJ はこうやってメンバーを鼓舞する。

リハーサルは実物大のスケールのセットを使って行われる。これってすごいことです。リハーサル用のセットではなく完成された本物を使ってやる（どんだけー！）すさまじくお金をかけている。まったく手抜きがない。MJ が姿を現すと現場の空気は一変する。さまざまなポイント（演奏、ダンス、PA、ライト）に的確な指示を出す。その声が優しい、きついことを言うとすぐに「怒っているんじゃないよ」、そしてミュージシャン、ダンサー、スタッフに声をかける「**あなたはすばらしい**」「**すごい**」「**God bless you**」。

通常、コンサートでは「ダンサー」「バックバンド」「照明」はそれぞれ別々に指揮系統があり、最終的にプロデューサーもしくはミュージシャンが最終的に物事を決める。MJ は違う。この映画を見ればよくわかるが、**彼はプロデューサーであり、演出家であり、各パートのマスター**であった。「ここをこうすれば、もっとよくなる」身振り、手振り、で楽器の音を真似たリズムと音色を指示する。実際にそうすると音楽がすばらしいものになる。「月光が浸むようなフィーリングで静かな静寂を作り出そ

フルトベングラー（実際の演奏を聞いてみたかった）



う」詩人です。かつて、ベルリンフィルの名指揮者とよばれた「フルトベングラー」の逸話のようだ。楽団員だけで練習をしていたのが突然すばらしい演奏に変わった。そこには入り口に立つフルトベングラーの姿があった。存在だけで周囲を変えてしまう。そんな MJ の姿にすべてのスタッフとミュージシャン、ダンサーは尊敬の念を素直に表現する。

ギリシャ系オーストラリア人、めちゃ可愛いっす^^→



ギターを担当したオリアンティ・バンガリスには練習中に「もっとハイトーンを」と要求する。おそらく彼女はそんな音を弾いたことがない。それを MJ は「もっと」「もっと」「これは君の見せ場だよ」「大丈夫、僕がついている」。高い要望と励まし、そして彼女はようやくコツをつかむ。「彼ほど人間の深い内面から人を動かす人はいない」。これは組織のリーダーに要求される要素そのものではないか。

もう一人のギタリストは「これまでいろんな一流の歌手と演奏をしてきたが間違いなく最高は MJ だ。彼は常にチャレンジしている。音楽に関する知識は完璧でずば抜けている。僕らも MJ に導かれるように最高のものを作ろうとする。そして MJ がいればそれができてしまうんだ。」と語る。

みんなが最高のものを目指す。そんなリハーサルがこの映画です。リハーサルの終了時に丸く輪のように肩を組み MJ が話す「これはすばらしい冒険なんだ。何も心配することはない。忍耐と理解をもって進もう。ファンの望みは日常を忘れる体験だ。彼らを未知の領域に連れて行こう。僕らの未体験の才能を見せよう。全力を尽くそう。世界に LOVE を取り戻そう。God bless you」ディレクターが叫ぶ。「ここはまるで教会のようだ」

そのわずか8日後、MJ は天に召される。死因はいまだ不明であり、さまざまな憶測を呼んでいる。

2009年10月1日 AP 通信が検死報告書のコピーを入手したと報道。内容は「検視当局による解剖の結果、肺に炎症は見られるものの息切れがあった可能性がある程度で、他の心臓や腎臓などの臓器は健康であり、マイケルの健康状態は50歳の男性として総合的に見て十分良好であった。また、AP 通信が麻酔の

権威である医師に報告書への見解を求めたところ、『マーレー（侍医）が投与した呼吸抑制作用を持つ鎮静剤と麻酔薬プロポフォールとの組み合わせが非常に危険であり、その複合作用により呼吸停止が起こった可能性が高い』と指摘した。」というものだった。（Wikipedia より）

いずれにしろ MJ は逝ってしまった。**MJ の存在自体が奇跡**。そんな思いを素直に持てる作品です。偉大なタレントが同時代にいたことに感謝をすることができる。そんな映画です。できれば大画面の TV と [ブルー・レイ](#)での鑑賞を。感動が倍になります。

しかし私にはとても不思議に感じていることがあります。それは、**このリハーサル光景の映像があまりにもよくできすぎているのです**。映画の最初に「これはマイケルの個人的な私有物である」とタイトルされているのですが、一部を除きすべてハイ・ビジョン・カメラが複数台動いています。マイケルの完璧主義の産物とするのにはあまりにも丁寧に、ひとつの綻びもなく作られているように感じるのです。**MJ はもしかしたら、次第に衰え行く肉体が最高のパフォーマンスを出せる限界のタイミングでこの公演を企画したのではないか。そして自分の死期に対する予感。世界中のファンに対してある種の「遺書」を残したように感じるのです**。これはもちろん私の個人的な印象です。根拠はありません。が、感じるのです。あまりにピュアな彼には 50 年という人生は長すぎたのかもしれない。



MJ の靴下のスパンコール

がティンカーベルの羽のキラキラ



に見えたのは私だけでしょうか。現代のピーターパンだったのか。

私は幸いなことに 1992 年の東京ドームでのカウントダウンコンサートを見ることができました。あのときの MJ は本当にかっこよかった。しかしこの「This is it」ではさらに進化した彼の姿を見ることができます。映画は彼の死について何も語っていません。彼は伝説となった。

「God bless you, MJ !」

厳しい社会情勢の中では久しぶりに見出す感動でした。本当にお勧めですよ。

いつもと違って叙情的な Letter となってしまいました。たまにはいいですよ^^;

次回は二月中旬、花粉真っ盛り(T_T)。

株式会社アール・リサーチ 〒271-0051 千葉県松戸市馬橋 1896-1 ヴィレッジ K・I 馬橋 3 F

Tel 047-342-3181 mobile 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp

<http://r-research.co.jp/> ブログ、毎日更新しています→<http://rresearch.blog103.fc2.com/>